

<2015 年度年間目標>

- ・安心して過ごし、好きな遊びを見つける
- ・遊び、生活を通して体験を積み重ねる

<一学期の保育の視点（願い）>

- ① 保育者の祈る姿を通して、神さまと出会う。
- ② 自分が受け入れられていることを感じ、安心して過ごす。
- ③ 保育者に親しみをもち、信頼を寄せる。友だちの存在を感じる。
- ④ 好きな遊び、好きな場所、好きな遊具を見つける。
- ⑤ 園の生活を知り、身のまわりのことを保育者といっしょにする。
- ⑥ 春から夏の自然を感じる。身近な虫、花、砂などに目をとめ、触れてみる。

「ママがいいのー！！」

—保育者が、お母さんの代わりに存在となっていくまで—

保育の視点②③④より

初めての幼稚園生活が始まり、三週間がたちました。幼稚園を楽しみに足取り軽くやってくる子ども、緊張しながらも精一杯過ごしている子ども、お母さんと一緒にいることで安心している子ども・・・一人ひとりの姿は様々です。私たち保育者は三年間の内の一年目の幼稚園での生活を、「焦らずゆっくりと」積み重ねて欲しいと願っています。その歩みが時々足踏みをしたり、後ろに下がったりすることがあっても、時間をかけて着実に一人ひとりにあった支えをしてけるよう努めます。

Aちゃんは、入園当初から朝私が「おはようございます」と声をかけてもお母さんの後ろに隠れて顔をださず、とても緊張した様子でした。なかなかお母さんの後ろから出て来ず、私が「Aちゃん、お部屋に入ってお母さんと一緒に朝の支度をしましょうね」と伝えても、顔をこわばらせ、靴を脱ごうとしませんでした。何分かたってようやくお母さんと一緒に靴を脱ぎ、保育室に入ってきます。お母さんと一緒にゆっくりと朝の支度を済ませた後も、お母さんにしがみつき離れません。私はお母さんとAちゃんに「ここでお仕事をお願いしますね、Aちゃんはお母さんと一緒にいてもいいわよ」と伝えると、Aちゃんはやっと安心した表情となり、お母さんにぴったりとくっついて過ごしました。

Aちゃんは二週間ほど、お仕事をするお母さんの傍らで、じっと保育室や庭で遊んでいる保育者や子どもたちのことを見ていました。そのうちに、少しずつAちゃんの姿が変わってきました。朝の支度をゆっくりと自分でやろうとしました。一歩も動かなかったのにダンスの時間になると、お母さんと一緒にダンスをするようになりました。Aちゃんの心が動いているのが分かったので、私はある朝お母さんに「お母さんはここでお仕事をしていて下さい」と言ってAちゃんを庭に連れだすことにしました。体をかたくして抵抗するAちゃんを私が抱っこすると、初めは大きな声で泣いて「ママがいい」と言いました。しかし、時間がたつにつれて、体の力を抜いて私に身を委ねてきました。「幼稚園では、私がお母さんの代わりね」と伝えるとこくりととうなずき、回りを眺め始めました。

次の日は、Aちゃんは私と手をつないで庭を散歩し、2人でダンゴ虫探しを始めました。プリンカップを持って歩いていると、何人かの年少組の子どもたちも集まってきて、Aちゃんと一緒にダンゴ虫探しをします。「このチューリップの根元にいるかしら？」と探してみると、、、たくさんのダンゴ虫。Aちゃんは4匹のダンゴ虫と一緒にいるのを見て「せんせい、このダンゴ虫家族かなー」と言います。「そうかもしれないわね。4人家族だったらAちゃんと同じね」と伝えるとニコッと微笑みました。

次の日、Aちゃんはお母さんがいなくても、大好きなダンスを踊りました。踊った後、「ママにダンス終わっちゃったって言わないと！！」と言うAちゃんの顔には、少し余裕を感じさせられました。



Aちゃんのように4月の最初にゆっくりと時間をかけて、お母さんから離れることへの安心をためていく子どももいます。また5月の連休明けに、今までちょっぴり背伸びしての頑張りを「やめた」とばかりに「お母さんと一緒にいたい」とぐずる子どももいるでしょう。その時も、お母さまと心を合わせて、一緒に子どもの思いに寄り添い過ごしていきましょう。

「はやくおにぎりたべたいなー！」

—お祈りしてからいっしょに「いただきます」—

4月23日より、週二回のおにぎり弁当が始まりました。初めてのお弁当の日、Bちゃんは「先生、いつになったらおにぎり食べる？早く食べたいなー」と朝からそわそわしています。とても楽しみにしていることがよく伝わってきました。

11時半になって私が「お弁当の支度を一緒にしましょうね」と声をかけると、いつもはどちらかと言えばゆっくりなBちゃんが、この日はすぐにリュックを持ってきてイスにかけ、リュックからお弁当箱を出して支度を始めました。隣に座った子どもに、「私ね、今日はシャケおにぎりにしてもらったんだー」と幸せいっぱいな顔で声をかけます。支度が全員できると、一緒にお祈りをします。「いただきます」といっしょに言って子どもたちがお弁当箱のふたをあけると、、、「わー」とみんなから喜びの声が聞こえました。そして、「おいしいね、おいしいね」と微笑みながら食べていました。

これから3年間、子どもたちはお母さんが作ってくださる愛情たっぷりのお弁当を食べて過ごします。そのはじめの一步を踏み出した子どもたちです。幼稚園で楽しいことがあった時も、時に思い通りにならなくて悲しいことがあった時も、お母さんのお弁当をいただいてほっとして心も体も大きくなっていくことでしょう。私もその傍らにいて、子どもたちの幸せな時を共有したいと思います。



(井上 直子)